



◆当面する重点作業

1. 高温により果実の日焼けが発生している。葉摘みや支柱立ては、果実温が十分に上がった午後から実施する。また、徒長枝の切りすぎや葉摘みのしすぎに注意する。
2. **果実・樹体の日焼け防止のためにも、定期的にかん水を実施する。**
3. サンふじの見直し摘果を再度行い、青味果・変形果・小玉等を落とす。
4. 早生種の収穫を適期に行う。早獲りによる未熟、収穫遅れによる過熟にならないよう収穫をする。
5. 中生種への落果防止剤の散布と、樹相に合わせた中生種の着色管理を行う。
6. 炭そ病の果実病斑が見られたら、早急に、採って土中に埋める。
7. **長野県より東北信地域に「果樹シンクイムシ類の多発の恐れあり」と発表された。**
モモシンクイガは、第1世代成虫の飛来は8月上旬がピークで、以降も連続して飛来し、幼虫の発生も連続するため、注意が必要。
また、スモホヒメシンクイは、第2世代成虫の飛来のピークとなる8月上旬以降は第3世代まで比較的連続して発生しやすいため、9月中下旬頃まで注意が必要。
薬剤防除は防除間隔や散布ムラに注意すると共に、被害果は速やかに適切な処分も重要。
8. 鳥害対策を工夫して行う。シナノリップなど特に着色の良い品種は重点的に対策を図る。

◆第12回薬剤散布について

1. 散布日：8月20日(水)～24日(日) 収穫中の品種は、散布後24時間経過すれば、収穫可能。

2. 調合量：水1000ℓ当り ※混用順に記載

散布日	月	日
-----	---	---

農薬名	使用量	対象病害虫	収穫前
展着剤	10ml	—	—
アーデントフロアブル	50ml	シンクイムシ類・ハマキムシ類	前日
アリエッティC水和剤	125g	黒星病・斑点落葉病・すす斑病・ すす点病・炭そ病・褐斑病	前日

3. 散布量：10a当り⇒500ℓ以上
4. 散布上の留意事項
 - ①**必ずアーデントフロアブルを溶かしきってから、アリエッティC水和剤を混用する。**
 - ②果面の汚れ軽減のため、通常展着剤に代えて、展着剤ササラ 3,000倍（水1000ℓ当たり33ml）を使用してもよい。
 - ③ハダニ類の発生が多い場合は、ダニオーテフロアブル 2,000倍（水1000ℓ当たり50ml）を加用散布してもよい。ただし、散布前後にキノンドーなど銅剤の散布を行わない。また、混用できない。

◆心かび果（心腐れ果）対策について

シナノドルチェは、心かび病の発生が多い。収穫前での対策として、樹上での選果・除去が必要となる。シナノドルチェは8月中旬頃を目安に実施する。大玉の果実を中心に着色が著しく進んでいる果実・地色の黄化が早い果実は、樹上で除去する。

◆カルシウム欠乏対策について

ビターピット・ジョナサンスポット、コルクスポット等カルシウム欠乏対策として、必要に応じて、下記内容により、葉面散布肥料を散布する。

1. 対策時期：継続して月に1回程度
2. 使用資材：

資材名	倍率	1000l当り使用量
ストピットII	500倍	200g
スイカル	1,000倍	100g
カルビタ	1,000倍	100g
カルタス	500～1,000倍	200～100g

3. 注意事項：基本、カルシウム肥料とリン酸肥料は結合してしまうため混用しない。
ストピットIIは、白くなるので収穫前の使用は控える。

◆落果防止剤のストップール液剤散布について

1. 調合量と散布日 展着剤は加用しない。

対象品種	使用倍率 水1000l当り調合量	散布時期目安	実際散布日
シナノドルチェ	1,500倍 66ml	収穫開始予定日の15日前頃 8月20日(水)～8月25日(月)頃	月 日
紅玉	1,200倍 83ml	収穫開始予定日の25日前頃 8月19日(火)～8月26日(火)頃	月 日
秋映	1,200倍 83ml	収穫開始予定日の25日前頃 8月29日(金)～9月3日(水)頃	月 日

2. 散布量：10a当り⇒5000l
3. 留意事項

- ①乾燥しやすい園地は生理落果が早まる場合があるので、早めの散布とする。
- ②土壌が乾燥していると、効果が低下するため、かん水を実施してから散布する。
- ③単用で1回(朝か風の無い夕方)散布とする。農薬散布とは1日以上間隔あける。
- ④散布対象以外へ飛散しないよう、手散布で果実及び果そう葉を中心に丁寧に散布する。
- ⑤落果防止剤は、水道水を使用する。